

多摩動物公園の野生アオサギの、繁殖期後期における分布

白井 剛（都立大・理・動物生態）

東京都日野市にある多摩動物公園の園内で、野生のアオサギが集団繁殖地している。繁殖期後期（6月～9月）に、この繁殖地の成鳥や生まれた幼鳥が、どのように分布しているかは、良く分かっていない。当地で、2003年よりアオサギの標識を行い、標識したアオサギがどのように分散しているかを、追跡している。今回は、これまでに確認した、標識されたアオサギの分散について報告する。

アオサギの捕獲は、東京都多摩動物公園の協力により、園内のツル園に設置されている、園内に放飼されている鳥を捕獲するための箱わな（幅 6.5m×奥行 4.0m×高さ 1.6m）を借用して行った。箱わなの中に放飼鳥に与える魚が入れられており、その魚を採食するためにアオサギが箱わなに入ったところを、入口を閉じ捕獲した。

捕獲した個体は、個体識別用の足環を左足の踵の上につけて放鳥した。足環は、Gravoply社製 2色貼り合わせプラスチック板を、高さ約 27mm、直径約 15mm の筒型に丸めてつくり、表面に数字を掘った。この足環の色は、年ごとに組み合わせを変えた。

足環は、2003年～2004年に、成鳥 12羽（2004年 12羽）、幼鳥 30羽（2003年 17羽、2004年 13羽）にとりつけられた（2005年も継続中）。このうち、2005年の繁殖期に再確認できた個体は、成鳥 12羽、幼鳥 3羽（2003年 3羽、2004年 0羽）だった。

標識した鳥の追跡を、園内と園外で行った。園内での観察は週 1回～2回行い、園外では園から半径 10km 以内にある、多摩川、浅川の調査地を月 1回観察して回り、標識されたアオサギを記録した。また、目撃情報を収集し、標識アオサギの分布地点についてまとめた。

アオサギの標識成鳥は、多摩動物公園の園内では繁殖期後期において 2003年 3羽、2004年 4羽、2005年 9羽（7月末現在）だった。一方、同じ時期、園外では 2003年 0羽、2004年 5羽、2005年 4羽が確認された。これらのアオサギが確認された場所と園との距離は、1.6km～33.8km だった。近い場所で見られた個体には、園との間を行き来しているものもいた。しかし個体の一部には、2004年の繁殖期後期は園内では確認できず、2005年の繁殖期に園内の繁殖地で確認されたものもいた。これらの個体は、非繁殖期の生息場所として園内を利用しておらず、翌年の繁殖期に再び戻ってきたものと考えられた。

幼鳥については、標識個体 30羽のうち、園内、および園外で再確認できたのは、のべ 3羽だけであった。また、番号が不明の個体 1羽は、光が丘公園サンクチュアリ佐藤氏からの情報により、園から約 25km 離れた東京都練馬区光が丘公園で確認された。幼鳥は、繁殖期後期には多摩動物公園内に残留しておらず、広く分布しているものと考えられた。なお、2005年の繁殖期に、幼鳥で標識された 1個体が園内で繁殖するのが確認された。